

化学・繊維

1. 評価対象企業（21 社）

帝人、東レ、クラレ、旭化成、レゾナック・ホールディングス、住友化学、日産化学、東ソー、デンカ、信越化学工業、エア・ウォーター、日本酸素ホールディングス、カネカ、三菱瓦斯化学、三井化学、JSR（注）、三菱ケミカルグループ、ダイセル、積水化学工業、UBE、日本ペイントホールディングス

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）同社は、上場廃止となった（2024 年 6 月）。

2. 評価方法等

（1） 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目（注）数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	経営陣の IR 姿勢等	4	29
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	説明会等	4	21
③フェア・ディスクロージャー	フェア・ディスクロージャー	2	5
④ESG に関連する情報の開示	ESG 関連	3	33
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	自主的信息開示	2	12
計		15	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

（2） 評価実施アナリストは 27 名（所属先 20 社）である。（氏名等は後掲）

3. 評価結果

（1） 総括（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

- ① 本年度は、ESG 関連を中心に項目内容および配点を見直したため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.2 点（昨年度 72.1 点）、総合評価点の標準偏差は 6.7 点（昨年度 6.6 点）となった。
- ② 評価分野毎に平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、経営陣の IR 姿勢等が 71%（昨年度 73%）、説明会等が 71%（昨年度 73%）、フェア・ディスクロージャーが 83%（昨年度同率）、ESG 関連が 70%（昨年度 69%）、自主的信息開示が 70%（昨年度同率）となった。
- ③ 評価項目（全 15 項目）について見ると、平均得点率が 80%以上となったのは、次のフェア・ディスクロージャーの 2 項目であった。
 - （a）「経営陣および IR 部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか」（平均得点率 81%〔昨年度 82%〕）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：60%台 1 社・70%台 6 社・80%台 12 社・90%台 2 社）
 - （b）「状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか」（平均得点率 86%〔昨年度 85%〕）（得点率：70%台 5 社・80%台 7 社・90%台 7 社・100%2 社）

④ ESG 関連の 3 項目は、次のとおりとなった。

- (a) 「環境 (E) 関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか」(平均得点率 73% [昨年度 72%]) (得点率: 60% 台 8 社・70% 台 8 社・80% 台 5 社)
- (b) 「社会 (S) に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか」(平均得点率 69% [昨年度同率]) (得点率: 50% 台 1 社・60% 台 12 社・70% 台 6 社・80% 台 2 社)
- (c) 「資本政策 (資本コスト・キャピタルアロケーション等)、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス (G) の有効性が示されていますか」(平均得点率 68% [昨年度 67%]) (得点率: 50% 台 3 社・60% 台 11 社・70% 台 5 社・80% 台 2 社)

(2) 上位 3 企業の評価概要

第 1 位 三井化学 (ディスクロージャー優良企業 [4 回連続 8 回目]、総合評価点 85.5 点 [昨年度比 -1.7 点])

- ① 同社は、経営陣の IR 姿勢等 (得点率 (以下省略) 88%)、ESG 関連 (82%)、自主的情報開示 (85%) が第 1 位、フェア・ディスクロージャーが同得点第 1 位 (90%)、説明会が第 2 位 (87%) となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の 2 項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、経営トップを含め経営陣が積極的に IR に関与していることや、経営トップとのコミュニケーションの機会が多いことを評価する声が寄せられた。また、経営方針、事業戦略、中長期ビジョン、計数目標、ESG への取組みなどが定量情報を含め明確に示されているとの声もあった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は第 2 位となった。IR 部門に関して、短中期の業績変動要因、会社の方向性、長期戦略等に関して有益な議論ができるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」および「四半期情報開示」が、共に同得点第 1 位となった。そのほかの 2 項目も第 2 位となった。これらに関連して、決算説明会に加え経営概況説明会を開催し、短中期の業績動向と中長期の方向性を丁寧に伝えようとしているとの声が寄せられた。また、業績変動要因について適切な説明が得られるとの声もあった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」(同得点第 3 位) および「速やかな情報提供」(同得点第 3 位) が共に 85% 以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の音声再生や要旨を日英両言語で遅滞なく公表しているとの声が寄せられたほか、質疑応答の要旨集がわかりやすいとの声もあった。
- ⑤ ESG 関連においては、環境 (E) に関連する項目および社会 (S) に関連する項目が、共に最も高い評価となった。また、資本政策、株主還元策等に関連する項目も第 2 位となった。これらに関連して、長期経営計画においてマテリアリティを見直し、事業活動とサステナビリティへの取組みが不可分であることを明確に示していること、非財務目標も定量化し KPI を設定、進捗状況や実績等を統合報告書等で開示していることなどを評価する声があった。また、非財務情報に関する説明会の開催を評価する声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等 (アナリスト主催を含む) を実施し、かつその内容は充実していること」が同得点第 1 位となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報 (ESG 情報や無形固定資産・知的財産等) を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」も同得点第 3 位となった。これらに関連して、シンガポール工場見学会や ESG 説明会などの開催を評価する声が多く寄せられた。また、統合報告書の内容が充実しているとの声もあった。

これら同社の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、同社を本年度の当業種における優良企業として選定した。

第2位 日産化学（総合評価点 83.4 点〔昨年度比+0.5 点〕、昨年度第2位）

- ① 同社は、説明会等が第1位（90%）、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（90%）、経営陣の IR 姿勢等（83%）、ESG 関連（80%）が第2位、自主的情報開示が第4位（77%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「IR 部門の機能、基本スタンス」の2項目が共に最も高い評価となった。これらに関連して、IR 部門の機能は十分で、必要な情報の入手が容易であるとの声のほかに、十分な数値が開示され、分析がしやすいとの声が寄せられた。「経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IR に積極的に関与していること」（同得点第3位）も評価された。「経営陣が企業価値向上の手段としての ESG の重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていること」は第6位となった。これらに関連して、経営陣は CFO を中心に IR に積極的に関与しているとの声があった。なお、経営トップについて IR への一層の関与を望む声があった。
- ③ 説明会等においては、4項目全てが最も高い評価（同得点第1位を含む）となり、この分野において第1位となった。これらに関連して、説明会資料や補足資料が充実しており、説明会における会社側のコメントも的確であるとの声や、詳細なデータを予想まで開示していることを評価する声が寄せられた。なお、動物薬原体の特許延長や、半導体材料、農薬の状況についての開示強化を望む声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第1位）および「速やかな情報提供」（同得点第7位）が共に 90%以上の得点率となった。これらに関連して、IR 全資料の英文対応を評価する声があった。
- ⑤ ESG 関連においては、資本政策、株主還元策等に関連する項目が、最も高い評価となった。これに関連して、資本政策、株主還元策の開示は優れているとの声があった。環境（E）に関連する項目は、同得点第4位に、社会（S）に関連する項目は、同得点第6位となった。人的資本や知的財産に関して有用な開示があるとの声があった。なお、G（資本効率）の取組みは十分に市場に浸透しており、今後、E と S にも期待するとの声もあった。
- ⑥ 自主的情報開示においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が第3位となった。「統合報告書、ファクトブック等の内容が充実していること。また、統合報告書において非財務情報（ESG 情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていること」は第7位となった。充実していたイベントとして、富山工場見学会を挙げる声が多く、また、材料科学研究所見学会を評価する声もあった。

第3位 旭化成（総合評価点 80.3 点〔昨年度比-0.2 点〕、昨年度第4位）

- ① 同社は、フェア・ディスクロージャーが同得点第1位（90%）、自主的情報開示が第2位（83%）、経営陣の IR 姿勢等（80%）、ESG 関連（80%）が第3位、説明会等が同得点第4位（78%）となった。
- ② 経営陣の IR 姿勢等においては、「経営陣の IR 姿勢」の2項目が共に評価され、80%以上の得点率となった。これらに関連して、大型投資の決定などの要所所で経営トップ自らが説明会に出席し、積極的な IR を行っているとの声があった。また、経営トップとの対話機会が増えてきているとの声もあった。なお、コングロマリット構造を選択していることについて十分な説明を望む声があった。「IR 部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができること。また、経営分析に必要な情報開示の継続性に配慮がなされていること」は第4位となった。IR 部門に関しては、会社の方向性や戦略、短中期の業績に与える要素等について有益な議論ができるとの声が寄せられた。
- ③ 説明会等においては、「決算説明会における会社側の説明が十分であること」および「説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示」が共に同得点第3位となった。「四半期情報開示」（同得点第4位）も 90%以上の得点率であった。これらに関連して、説明会資料や取材時の開示などに改善が見られるとの声や、経営戦略説明会の開催を評価する声が寄せられた。なお、定性的な説明に比べ、定量的な説明がやや不十分との声があった。
- ④ フェア・ディスクロージャーにおいては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」（同得点第3位）および「速やかな情報提供」（同得点第3位）が共に 85%以上の得点率となった。これらに関連して、決算説明会の要旨が質疑応答を含め日英両言語で滞滞なく提供されていること、重要な意思決定の直後にハイブリッドで説明会を開催していることを評価する声があった。

- ⑤ **ESG 関連**においては、環境（E）に関連する項目および社会（S）に関連する項目が、共に第 2 位となった。また、資本政策、株主還元策等に関連する項目も第 3 位となった。これらに関連して、事業を通じた環境および社会への貢献に加え、事業活動に付随する負荷低減に関しても定量目標を設定していること、環境関連データなどの ESG 関連データの開示に積極的であることを評価する声があった。なお、社外取締役の取締役会での意見や議論について具体的な開示を望む声があった。
- ⑥ **自主的情報開示**においては、「工場見学、ESG 説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していること」が同得点第 1 位となった。充実していたイベントとして、延岡工場見学会や富土工場見学会を挙げる声が多かった。

以 上

2024年度 ディスクロージャー評価比較総括表（化学・繊維）

（単位：点）

順位	評価項目 評価対象企業	総合評価 (100点)	1. 経営陣のI R姿勢、 I R部門の機能、I R の基本スタンス		2. 説明会、インタビュー、 説明資料等における 開示		3. フェア・ディスク ロージャー		4. E S Gに関連する 情報の開示		5. 各業種の状況に即した 自主的な情報開示		前回順位
			評価項目4 (配点 29点)		評価項目4 (配点 21点)		評価項目2 (配点 5点)		評価項目3 (配点 33点)		評価項目2 (配点 12点)		
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	4183 三井化学	85.5	25.4	1	18.2	2	4.5	1	27.2	1	10.2	1	1
2	4021 日産化学	83.4	24.2	2	19.0	1	4.5	1	26.5	2	9.2	4	2
3	3407 旭化成	80.3	23.2	3	16.3	4	4.5	1	26.3	3	10.0	2	4
4	4005 住友化学	77.5	22.7	5	16.3	4	4.5	1	24.6	5	9.4	3	5
5	4204 積水化学工業	77.0	22.3	6	16.4	3	4.2	9	25.1	4	9.0	5	3
6	4208 UBE	76.2	23.1	4	15.8	8	4.2	9	24.3	6	8.8	7	6
7	4182 三菱瓦斯化学	73.2	21.1	7	16.2	6	3.9	16	23.7	7	8.3	11	13
8	3402 東レ	72.3	20.8	9	15.3	9	4.0	14	23.3	9	8.9	6	9
9	4004 レゾナック・ホールディングス	70.3	20.9	8	14.5	12	4.1	12	22.4	12	8.4	9	17
10	4202 ダイセル	69.2	20.4	10	14.4	13	3.9	16	22.4	12	8.1	13	14
11	3401 帝人	68.5	19.8	14	13.7	16	4.2	9	22.8	10	8.0	15	10
11	4612 日本ペイントホールディングス	68.5	20.2	11	13.3	18	4.3	7	22.2	14	8.5	8	11
13	4042 東ソー	68.1	20.1	12	14.7	11	4.0	14	20.9	20	8.4	9	16
13	4188 三菱ケミカルグループ	68.1	18.9	17	13.9	14	4.4	6	23.4	8	7.5	18	7
15	4061 デンカ	68.0	20.1	12	16.0	7	3.5	21	21.1	19	7.3	19	11
16	4088 エア・ウォーター	67.3	18.1	20	14.9	10	4.3	7	21.9	16	8.1	13	20
17	3405 クラレ	67.2	19.2	15	13.7	16	3.6	20	22.5	11	8.2	12	15
18	4091 日本酸素ホールディングス	66.0	18.9	17	13.2	20	4.5	1	22.2	14	7.2	20	18
19	4063 信越化学工業	65.9	19.0	16	13.3	18	4.1	12	21.6	18	7.9	16	19
20	4185 JSR	65.6	18.5	19	13.8	15	3.8	18	21.8	17	7.7	17	8
21	4118 カネカ	57.1	16.4	21	11.5	21	3.8	18	18.9	21	6.5	21	21
	評価対象企業評価平均点	71.18	20.63		14.97		4.13		23.09		8.36		

2024年度評価項目および配点（化学・繊維）

【評価期間：2023年7月～2024年6月】

1. 経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス（29点）	配点
(1)経営陣のIR姿勢	
①経営陣が企業価値への意識を高め、決算説明会やミーティング等において経営方針・中期計画などを十分に説明し、IRに積極的に関与していますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	10
②経営陣が企業価値向上の手段としてのESGの重要性を認識し、その取組内容を投資家に的確に伝えていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	7
(2)IR部門の機能、基本スタンス	
①IR部門に十分な情報が集積され、アナリストが要望する情報を提供し、担当者と有益なディスカッションができますか。また、経営分析に必要かつ重要な情報開示の継続性に配慮がなされていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	9
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的な開示を行い、今後の改善の展望を示していますか。	3
2. 説明会、インタビュー、説明資料等における開示（21点）	配点
(1)説明会、インタビューにおける開示	
①決算説明会における会社側の説明は十分ですか。	7
②インタビューにおける補足説明は十分ですか。	7
(2)説明資料等（短信・添付資料および補足資料を含む）における開示	
・説明会資料等において投資家が求める情報が継続性やセグメント別情報も含め十分に開示されていますか。	5
(3)四半期情報開示	
・四半期決算の内容の理解に必要な補足情報が十分に開示されていますか。	2
3. フェア・ディスクロージャー（5点）	配点
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・経営陣およびIR部門が、投資家にとって重要と判断される事項についての開示（メディア対応も含む）に際し、遅滞なく十分に、かつ公平に行っていますか。	3
(2)速やかな情報提供	
・状況変化に応じて、リモートツール等を活用した有用かつ、速やかな情報提供（説明会、決算説明会の資料・質疑応答、リプレイ、英語対応）を行っていますか。【優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	2
4. ESGに関連する情報の開示（33点）	配点
①環境（E）関連のマテリアリティを策定・開示し、中長期の取組みを適切に開示していますか。	11
②社会（S）に関連する情報を、経営戦略と整合する形で、従業員エンゲージメントや人権リスクなどの人的資本に関するものも含め積極的に開示し、投資家の理解が深まるように努力していますか。	11
③資本政策（資本コスト・キャピタルアロケーション等）、株主還元策等が十分に説明されていますか。また、社外取締役を含め、ガバナンス（G）の有効性が示されていますか。	11
5. 各業種の状況に即した自主的な情報開示（12点）	配点
①工場見学、ESG説明会、事業部説明会、技術説明会等（アナリスト主催を含む）を実施し、かつその内容は充実していますか。【過去1年間を目安に評価】【充実していた見学会等名をコメント欄に記入して下さい】	7
②統合報告書、ファクトブック等の内容は充実していますか。また、統合報告書において非財務情報（ESG情報や無形固定資産・知的財産等）を開示し、経営の長期的課題に対する取組みと成果を投資家にわかりやすく伝えていますか。【充実していた資料名・取組事例等をコメント欄に記入して下さい】	5

化学・繊維専門部会委員

部 会 長	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
部会長代理	山田 幹也	みずほ証券
	岡寄 茂樹	野村證券
	齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント
	澤砥 正美	SBI 証券
	野口 英彦	アセットマネジメント One
	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント

評価実施アナリスト（27 名）

池田 恵太	大和証券	西平 孝	岡三証券
伊藤 健悟	QUICK	西脇 秀敏	三菱 UFJ 信託銀行
今津 拓洋	アセットマネジメント One	野口 英彦	アセットマネジメント One
上迫 和也	三井住友トラスト・アセットマネジメント	林 智夫	朝日ライフ アセットマネジメント
梅林 秀光	大和証券	松川 正子	農林中金全共連アセットマネジメント
大野 剛	丸三証券	宮本 剛	SMBC 日興証券
岡寄 茂樹	野村證券	虫明 直樹	東京海上アセットマネジメント
岡田 真一	三菱 UFJ 信託銀行	百田 史哉	三井住友トラスト・アセットマネジメント
河野 孝臣	野村證券	山田 幹也	みずほ証券
齋藤 達哉	三井住友 DS アセットマネジメント	吉田 篤	みずほ証券
澤砥 正美	SBI 証券	渡辺 勇仁	大和アセットマネジメント
高橋 豊	極東証券経済研究所	渡邊 亮一	モルガン・スタンレー MUFG 証券
立田 裕昌	SOMPO アセットマネジメント	渡部 貴人	モルガン・スタンレー MUFG 証券
坪井 暁	ニッセイアセットマネジメント		

（注） 上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。